

小さな町の大きな挑戦 〜エネルギーの地域内循環を目指して〜

森の国まきステーション
代表 谷 清



松野町は愛媛県の西南部に位置し、面積98.45km²、人口3,934人（2019年11月30日現在）の小さな町である。本町の西南部には、標高1,200m級の鬼ヶ城山系と北東部には、戸祇御前山系の支脈が連なっている。森林面積は、町の面積の84%（8,230ha）を占めている。そのうち国有林1,717ha、民有林6,513ha、スギ、ヒノキの人工林が4,403ha、人工林率は68%となっている。

林家数419戸（2015年農林業センサス）であり、統計の上では、林家数が多いが、木材価格の長きにわたる低迷や高齢化及び少子化による労働力不足等により、間伐等施業が実施されず森林整備が遅れているのが現状である。

このような状況の中、松野町では、JRF

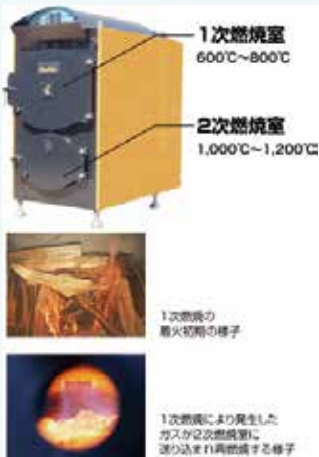


間伐されていない山林

松丸駅駅舎二階にある森の国ぼつぽ温泉が施設の老朽化等による施設の大規模改修を実施することとなり、既存の灯油ボイラーに加えて新たに薪ボイラーを設置し、併用利用するという計画が持ち上がり、2014年に検討委員会が設置され、協議が開始された。

検討委員会の構成は、林業関係者、松野町の担当課及び関係課の課長や担当職員、松野町農林公社、松野町商工会、南予森林組合のそれぞれを代表する者で構成され、オブザーバーとして、南予地方局森林林業課も検討委員会に参加していただいた。私も林業関係者の一員として加わった。

検討委員会では、次の事を決定した。一、薪ボイラーの機器、仕様の選定



薪ボイラー

二、森の国まきステーションの設立
森の国まきステーションの設立にあたり、設置目的として、まきの普及と活用を通じて森林整備の促進、里山環境の保全、林家所得の向上及び再生可能エネルギーの啓発等に取り組み、もって森林の持つ多面的機能を発揮させることにより、地域経済の活性化と循環型社会の構築を図ることを目的とした。この目的に沿って2015年から事業が開始された。事業の概要は、図1のとおり。



まきステーションへの搬入の様子

事業運営として、木材（丸太）の受け入れは火曜日・木曜日、受け入れ条件は松野町産材、丸太の大きさは直径5cm、長さは60cm刻み、町民誰でも出荷することができると定期的な出荷者は会員登録（会費1,000円）とした。出荷者に対する支払方法は半分は商品券、残りは後日、口座振り込みとした。買取価格は、表1のとおりである。

表1 買取価格

水分率	樹種	広葉樹 (クスギ・ナラ・カシ)	針葉樹・左記 以外の雑木
25%以上		8,000円/t	6,000円/t
25%未満		9,000円/t	7,000円/t

表2 取扱量の比較

項目	設立時 (平成27年度)	現在 (平成30年度)
受入量	265.9t	421.3t
出荷量	15.7t	302.4t

表3 設備一覧

薪割機	2台
トラックスケール(重量計)	1台
垂直ゲート付トラック	1台
薪用コンテナ	25台
端材用コンテナ	2台
薪ストーブ用コンテナ	15台
油圧ショベル、グラブ	1台
大型加工薪割製造機	1台

令和元年9月に大型加工薪割製造機を導入し、職員に時間的余裕が生じた。この時間を活用して町有林や民有林の間伐等に従事することを検討する。また、松野町では、薪ストーブ設置に対して薪購入券を補助しているので薪ストーブ代

また、設立時と現在との受入・出荷実績の比較及び、設備の一覧は表2・3のとおりである。

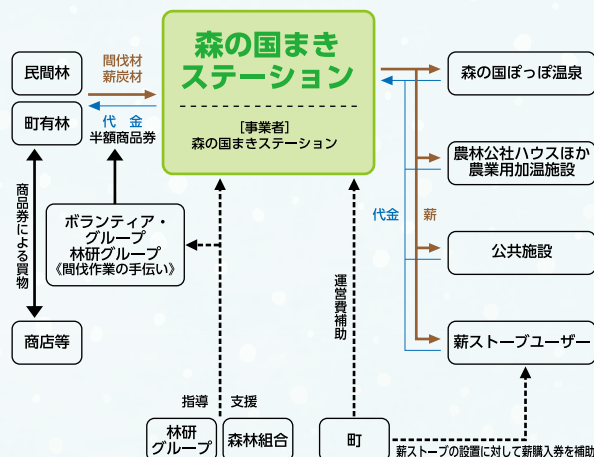


図1 事業の概要

森の国まきステーション設立後、4年が経過して、町民に知られ、一定の評価は出来るが木材出荷者が限られており、また、農繁期・農閑期のばらつきがあるため、工場稼働に支障をきたしている。また、薪の出荷先が森の国ぽっぽ温泉が中心であり、他の出荷先を拡大する必要がある。



森の国ぽっぽ温泉（滑床の湯）



間伐後にミツマタを定植



施行中（集材の様子（杉材））



施行後（間伐後の様子（杉材））

最後に、間伐を進め、森の国まきステーションに出荷後、その山がどう変わったかを写真で紹介する。

最後に、間伐を進め、森の国まきステーションに出荷後、その山がどう変わったかを写真で紹介する。

理店と協力して、町内外にも販路の拡大を模索する。森の国トーチ（スウェーデントーチ）をキャンプ用品としてだけでなく、災害対策物品として販路開拓する。森林環境譲与税の交付を見据え、最終的には森の国まきステーションが民有林等の森林整備、担い手育成、森林資源の活用を担う林業事業体として確立することを目指す。